



ゆすはら町議会だより

題字 議長 高橋基文

平成26年4月20日

# 四万十源流

## 第87号



### 集落活動の拠点

### 「集落活動センター四万川」開所

(平成26年3月29日)

### — 3月定例会 —

施政方針	2
予算連合審査会	3
3月定例会で決まったこと	7
2議員(長山・下元)が一般質問	10
委員会調査報告	12





### 3月 定例会

議会3月定例会は、3月7日から13日の7日間の会期で開催した。  
 一般質問には、2人の議員が「町長の公約である小規模多機能型福祉施設、図書館、太郎川公園再生について」「ゆすはらまるごとクリニックについて」など町の考えを問いただした。  
 議案審議では、平成26年度各会計歳入歳出予算を総務教育厚生常任委員会に付託し、産業建設常任委員会との連合審査会とし、11日、12日の両日で集中審議を行った。また、町条例の一部改正や補正予算など、本会議で審議を行い、すべての議案について原案どおり可決した。

施政方針を述べる町長



## 施政方針

自治の基本は

# 「自立」

価値を生み出す栲原へ

平成26年度に臨む施政方針は「広報ゆすはら」に、詳しく掲載されますので、基本姿勢のみ掲載いたします。

### 26年度に臨む基本姿勢

自治の基本は「自立」であります。  
 自立ということの意味は、自分で完結することではなく、周囲と様々な関係を築き、資金の提供

を受け、それに見合う価値を生み出している状態のことです。  
 その価値とは、財貨のみならず、人が役に立っていると思う物やサービスのことであります。  
 また、「経営」と言う言葉の意味も、金を儲ける活動のことでなく、経営の本質は、社会に役立つ価値を生み出し、社会から支持されることで生き残り発展する活動のことです。  
 自治体も行政も、この本来の意味の「経営」を考える団体、組織に変わる必要があります。危機感を持った自治体が増してお

ります。  
 本町も、その第一歩として行政改革大綱を変更し、学習から始めており、時間もかかりますが、着実に歩を進め役場を担う人材を育成し、栲原町を未来永劫に引き継いでいかなければなりません。  
 そのため、私は、千百年にわたり整備されてまいりました地域資源と自然環境を活かし、共生と循環の考え方で、2020年に向けて栲原町総合振興計画に定めた「健康・教育・環境・産業・文化くらし」をキーワードに、六つの社会を目指してまいります。

町長は、平成25年12月定例会以降における諸般の行政について、次の項目の報告をした。

・高幡消防津野山分署の不適切な出張

### 総務課関係

・選挙人名簿登録者数

### 企画財政課関係

・若者定住対策審議会

保健福祉支援センター関係  
 ・ゆすはら健康長寿の里づくりプロジェクト  
 ・インフルエンザ

### 環境整備課関係

・新エネルギー等施設導入事業  
 ・合併浄化槽設置事業

### 産業振興課関係

・広域観光活性化事業

新エネルギー等施設導入事業で、太陽光発電設置率もアップ！



# 平成26年度 各会計予算の概要

## 平成26年度 梶原町各会計当初予算額

(単位：千円、%)

会 計	26年度予算額	25年度予算額	対前年度増減額	増 減 率
普通会計				
一 般 会 計	5,184,000	4,715,000	469,000	9.9
松原診療所特別会計	19,200	25,800	△ 6,600	△ 25.6
四万川診療所特別会計	9,600	13,200	△ 3,600	△ 27.3
普通会計計	5,212,800	4,754,000	458,800	9.7
公営事業会計				
国民健康保険特別会計	570,000	524,000	46,000	8.8
後期高齢者医療特別会計	58,000	56,000	2,000	3.6
介護保険事業特別会計	528,000	510,000	18,000	3.5
簡易水道事業特別会計	422,800	199,200	223,600	112.2
農業集落排水事業特別会計	38,500	36,100	2,400	6.6
下水道事業特別会計	100,000	95,900	4,100	4.3
風ぐるま事業特別会計	56,300	55,300	1,000	1.8
病院事業会計	601,900	643,400	△ 41,500	△ 6.5
公営事業会計計	2,375,500	2,119,900	255,600	12.1
給与等集中管理特別会計	715,000	716,000	△ 1,000	△ 0.1
単 純 合 計	8,303,300	7,589,900	713,400	9.4
各会計間重複控除額	1,206,029	1,196,830	3,430	0.3
差引純計額	7,097,271	6,393,070	709,970	11.1

委員会連合審査（予算）

3月7日の本会議において、一般会計をはじめとする各会計当初予算の審査は、総務教育常任委員会に付託された。

付託を受けた総務教育厚生常任委員会は、産業建設常任委員会に連合審査を要請し、3月11日、12日の両日、矢野町長をはじめとする執行部幹部職員出席を求め審査が行われ、13日に審査報告書が議長に提出された。

### 委員会審査報告書

平成26年度の予算編成については、一般会計において前年度比9.9%の伸びとなっており、その編成内容を精査した。

本町の財源を大きく左右する地方交付税は、前年度対比10%の減少、町税においてもマイナスの伸び率と厳しい状況に変わりが無いが、国・県支出金をはじめ財源確保と健全財政維持に努められている。

また、矢野町長2期目のスタートに向けて諸施策に思いが表れており、仕組みづくりから事業化を見据えた、町の今後、将来を決める継続的な予算となっているので、一層の健全財政に尽力され、次年度以降も中長期的な財政計画を視野に入れ予算編成や予算執行にあたられたい。



# 予算連合審査

## 一問一答 抜粋

### 一般会計

#### ○梶原応援隊について

下元秀俊

梶原応援隊の増員をされるということだが、その応援隊について、これまでの活動も含めて、今後どういったことを考えているのか。

#### 答 企画財政課長 西村新一

応援隊の活動は、今、松原・初瀬、そして全域に3人ということとで配置をしている。

1年目は地域の人々の顔を覚えていくということからはじめて、地域のものを少しでもお金に換えていこうと「出荷をしてよ」といった声かけを含めた活動。

2年目は、農繁期も含めての活動であり、その中で農産品を出荷し、宣伝を含めて集落をまわることによる見守り体制の



オープンした集落活動センター四万川の直販所

実施。さらに、活動の中では、各集落のイベントの開催や、学校の放課後のサポートという地域の活動に対してのサポートを実施。

今回3人増加して6人とするので、集落活動センター3か所だけでなく、6区の地域の発展、地域の活性化をめざし、6人をそれぞれの地域に配置をしながら、地域の活性化のサポート役としての役割を担うということと併せて、3年目に入

りますので、現在の3人との情報共有を図ってスムーズな引継ぎを考えている。

#### ○集会所への蓄電池について

長山和幸

集会所にできる蓄電池とは、どれぐらいの規模でどういう状態にあるのか。そして、その利活用の範囲はどう考えているのか。

#### 答 総務課長 山本正澄

蓄電池については、平成26年度に、町の避難所にも指定している、松原ふれあいセンター、鷹取の家、四万川交流センターの3つの区の拠点の避難所に導入するもの。

この3カ所とも太陽光発電を活用するもので、この蓄電池は、5キロワットアワーが2基であり、1時間に100ワットの物を使って、約4時間程度の使用が可能となっているので、災害等の停電時には、必要最低限なものに活用することを考えている。

#### ○社会福祉の自助・共助について

二宮近雄

町長の町民を優しく思う心と英断により社会福祉協議会が法人化されるのが決定した。心から敬意と感謝を申し上げる次第である。これからは町民の皆さんの絶大な協力が必要になってくると思うが、自助、共助についてどのように考えているか。

るか。

基本的には、今度任命される社会福祉協議会長の仕事でもあると思うが。

#### 答 町長

矢野富夫

施政方針や先日の一般質問中でも答弁したように、本年度は福祉元年と位置づけ、新しい「福祉のまちづくり」のスタートとしたい。そのためには、自助、共助については、町民の皆さんに理解いただき心底からの協力が欠かせないと思っている。新しく発足する社会福祉協議会長との連携を図りながら安心して安全なまちづくりをしていく。

#### ○福祉センターについて

長山和幸

小規模多機能施設の関係はどうなるのか。

#### 答 支援センター長 橋田淳一

小規模多機能的中間施設を計画していく中で、福祉センターの機能移転についても協議をし

ていく。

スケジュール的には、平成27年度に設計をして28年度に施設整備をし、29年度にオープンになります。

・幸福の家の機能移転も中間施設等々に機能移転できると考えている。

・就労支援所は、この3年間で、移転先の協議を同じ時期にしていきたいと考えている。

・生活機能訓練室の移転も、同じ期間に検討し、移転先を決めていきたいと思っている。

すべての機能移転が終了したら、福祉センターを取り壊す段取りを考えており、利用者の方々に對して順次説明することを考えている。

#### 追加

長山和幸

29年完成ということ、取り壊すことが決まっている段階では、大規模な改修は難しいと思いますが、利用者目線で考えて必要な修繕対応を。



○農業などのコーデイネーターについて

下元秀俊

平成26年度から配置する、「農業をいかにお金にかえるか考える会」でも要望が強くあったコーデイネーターの役割とは。

答 産業振興課長 来米修作  
農林商工、それぞれに1人ずつのコーデイネーターを配置し、特に、農業分野に関して、やる気のある方についての取り組みを、しっかりとお金にかえていくような組織、自らがそういうふうなことができる組織をまとめていくことが一番であり、それとは別に、新規就農者への指導なども考えている。

また、移住・定住のコーデイネーターとも縦横断的に全体の組織として連携を取りながら、しっかりと梶原の産業を育てていくことを目指している。

○雲上の温泉・プールについて

西川慶男

太郎川の施設群については、平成29・30年度に大規模な改修を考えているとのこと（長山和幸氏一般質問より）であったが、まだ数年の期間があり、利用者が少ない現状を、しっかりと究明すべきである。併せて所期の目的どおり実施できる方法につなげていくことが大事である。

答 町長

矢野富夫

健康増進のために利活用いただく支援体制は、ぜひ検討していきたいと思っている。

このことが予防型社会に通じてくると思っており、福祉と連動し、健康増進・維持管理、そこには新たな機器・設備も美学的なことも含めて、取り組みたいと考えている。温泉部門については、単価を軽減するというところも、一般の町外の皆さん方からの利用も含めて、町民と差もつけ、町民には手厚いといった利

用を促進するような仕組みも考えていきながら、支援体制もしていきたいと考えている。

○町活性化事業補助金について

市川岩亀

4月1日から3%の消費増税がされることにより、町内の消費冷え込みが懸念される中でプレミアム付きの商品券を発行しようとするもので、これにより町内で1億3千万円あまりの経済効果が図られる。またこの商品券を利用することで、少しでも町民の皆さんに増税分を還元しようとする矢野町政下の思いやり予算である。町長の思いが広く多くの町民に届くような発行方策を考えるべきである。

答 町長

矢野富夫

まさにそのとおりである。この千百年を新たな100年に向かい、町民一丸となって活力を持ってスタートし、消費税で苦労されていることも含めて

協力してまちづくりに取り組んでいこうとの思いで発行するものである。券については500円券にし、少ない金額でも交換ができ、商工会加盟店に限らず、病院や行商、町内すべてのものに使える仕組みづくりをし、町民全員の皆さんに広く利用していただきたいと思っている。

○佐渡鷹取線について

市川岩亀

佐渡・鷹取間町道整備に調査測量委託料が予算計上されている。この予算で工事進捗はどのくらいできるのか。

答 環境整備課長 矢野準也

平成26年度予算で2億6千万円あまり組んでいる。中身については、439号線の幅員が狭いためクレーンを据える待避所的な作業ヤードの仮橋と対岸への橋梁を掛けるための仮設の橋を作ることに予定されている。それに伴いトンネル調査にも利用する。

○芸術文化の推進について

長山和幸

文化祭から芸術祭に変わるということですが、そのためには、住民自ら考えて行動することが大変大事で、特に文化というのは、積み上げていくのは大変難しい仕事であり、文化協会などの皆様をはじめ、その人たちの活動の支援というのが必要ではないかと考えるがどうか。

答 教育長

久保栄八

広い意味で生涯学習活動を、今後どう展開していくかということに密接につながると思う。

例えば今回、町長から出ている図書館の建設等々の協議、そういったものとも関係すると思いますので、各団体の皆様と協議をする形の中で、新たな支援、方向の変更等については、十分議論をし、活動者の増員、新たな組織の活性化等についても視野に入れ、進めたいと考えている。

風ぐるま会計

○修繕について

下元秀俊

売電収入と修繕費の関係も含めて、今後の修繕費について、どの程度年度ごとに予測をしているのか

答 環境整備課長 矢野準也

過去の3年間の利用率により売電収入を見込んでいます。修繕費については、今年度予定しているのが、SVG盤（四電に電力を売るために据え付ける機械）の中にあるコンデンサー3つのうち2つが破損するという状態があり、15年の寿命をむかえていること、破損した場合、7・8か月の間、売電ができない状態となるので、予防としての修繕。あと、毎年の修繕の計画の中で、毎年、何年サイクルでかえていくものがあるので、平準化し、単年に集中しないように考えている。

# 地域包括ケアを 目指す梶原病院



病院の現状を説明する内田院長

11日の連合審査には、梶原病院内田院長の出席を要求し、病院の現状についての説明を求めた。

内田院長からは、平成25年度の外来・入院患者数の減少や、一人ひとりの医療費増加などの現状や、地域包括ケアを目指していくという梶原病院のビジョンについて、そしてそのための活動や体制、環境の整備についての説明があった。

## 教えて内田院長!!

問 西川慶男

○人間は、死を避けてとれない。だからこそ、最後に、家族また親戚に看取られて、そして旅立つということも、梶原病院の所期の目的であったと思うのだが、現状としてはどうか。

答 家族みんな一緒に、最後を見送って、いい時間を持てるかどうか

かということに関しては、非常にいいかたちでできていると思う。ただ、病状等に合わせ、急病、重病で、梶原病院以外へ行かれた人が、残念ながら戻って来られないこともよくあります。しかし、逆に癌の末期の方でも、最後は梶原病院でという方もいます。

○今回、医師の異動で、院長をのぞき他の全員が交代となるが、それぞれ主治医として対応しており、一度に異動になると、患者さんのショックが大きいのではないかと。また、様々の状況を指導する院長として、不便がありはしないか。

答 医師の異動については、非常に難しい問題で、私も、あちこちの病院、診療所を経験してきており、異動の時は、心苦しいものがある。しかし、高知県全体の状況を見るとしかたのないことだと思ふ。

病院の混乱等について

は、梶原病院の医師をはじめ、看護師、技師など、各スタッフが非常に優秀だと私は思っており、極力混乱がないような形でやっていけると思っています。

○外来・入院患者の減少は、梶原病院の利用率がさがって、梶原外の病院にかかる町民が増えてきているのではないかと考えられるが状況はどうか。

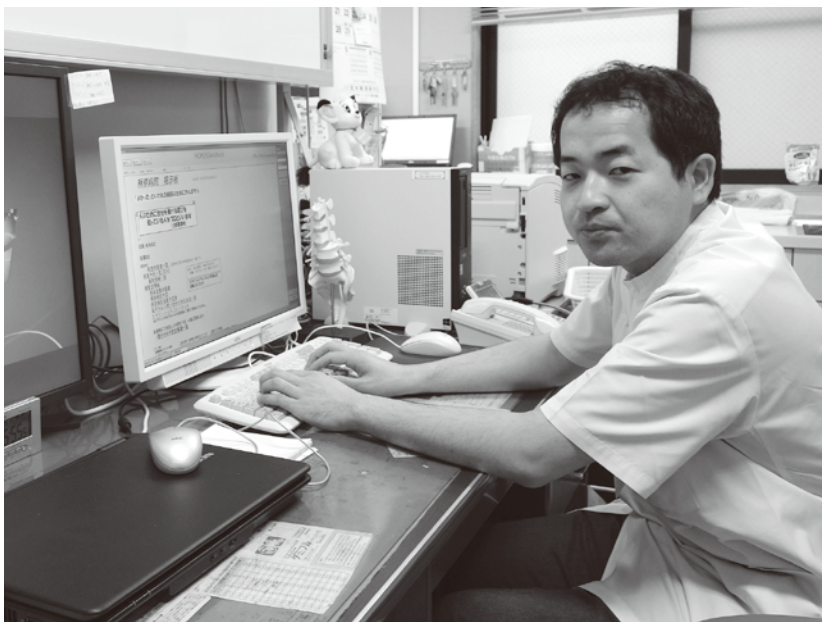
答 仮に梶原病院で診ることのできる患者さんが、他の病院に行っているのなら、非常に反省すべき点である。しかし、少子高齢化で人口減少の現在、これから先、全国の郡部の病院では、減少してきます。その中にも梶原病院が医療機関としてあり続けていけば、非常に安心につながると思いますが、今後の患者の動向を注視し、検討し努力していく。

問 長山和幸

○広域医療ネットワークについて、町内は、電子カルテ等を含めて、ネットワーク化になったと思うが、今後、町外の病院などと広域的にどうなるのか。基本的な計画とか見通しはどうか。

答 広域のネットワークについては、今、高知県下で、例えば高知医療センターと他の大きな病院同士のネットワークを構築しているかというところは聞いている。

私は、そこに梶原病院も入っていると期待しており、個人的に期待しているという段階です。



電子カルテで情報を一元管理



# 議案審議の概要

## 3月定例会に提案され審議した議案についての概要（抜粋）

### 補正予算

#### 〔平成25年度一般会計補正予算〕

県営工事の確定及び追加事業により1千700万8千円、町道舗装工事及び国の補正予算で追加割当のあった町道2路線の法面工事及び道路付属物の点検費用3千702万9千円、高幡消防組合が実施する消防救急デジタル無線整備に構成市町村が負担をする負担金8千602万1千円など3億1千430万3千円を追加し、歳入歳出それぞれ59億2千990万4千円とするもの。

可決（全員賛成）

#### ○質疑

問 平成25年度の空き家調査の結果状況はどうだったのか。

下元秀俊

答 企画調整課長 西村新一

空き家の件数は106軒。その中で、賃貸可能物件が22軒。さらに、そのうちに、改修をしなくて、すでもうお貸しをしている住宅が6軒。そして、今年度、住宅改修の整備をした件数が3軒です。

#### 問

去る12月定例会に、前の社会福祉協議会が解散した際、地域福祉業務を引き継ぐ条件に、500万円をカルスト会の基本金に入れていたが、地域福祉業務を行っていない今日、500万円を返してもらおうのが本筋ではないかと質問したがどうなっているか。

二宮近雄

#### 答

副町長 吉田尚人

質問をいただいたあと、カルスト会理事長から話を聞いています。結論としては、法に基づく手順に則り、評議委員会、理事会に諮り県の指導も受けながら、500万円は平成26年度中に返すことになっている。このような報告を受けているところである。

#### 〔平成25年度町立松原診療所特別会計補正予算〕

施設管理費及び医業費の確定見込みに伴うもので56万8千円を減額し、歳入歳出それぞれ2千273万8千円とするもの。

可決（全員賛成）

#### 〔平成25年度町立四万川診療所特別会計補正予算〕

施設管理費及び医業費の確定見込みに伴うもので91万7千円を減額し、歳入歳出それぞれ1千261万3千円とするもの。

可決（全員賛成）

#### 〔平成25年度国民健康保険特別会計補正予算〕

榊原病院が実施した電子カルテ整備事業の財源として、病院事業会計繰出金3千999万9千円など4千947万9千円を追加し、歳入歳出それぞれ6億6千83万6千円とするもの。

可決（全員賛成）

#### 〔平成25年度後期高齢者医療特別会計補正予算〕

後期高齢者医療保険料の収入の確定見込みに伴うもので18万円を追加し、歳入歳出それぞれ5千618万円とするもの。

可決（全員賛成）

#### 〔平成25年度介護保険事業特別会計補正予算〕

事業の確定及び見込みに伴うもので4千33万9千円を減額し、歳入歳出それぞれ4億7千453万6千円とするもの。

可決（全員賛成）

#### 〔平成25年度簡易水道事業特別会計補正予算〕

事業の確定及び見込みに伴うもので76万3千円を減額し、歳入歳出それぞれ1億9千167万3千円とするもの。

可決（全員賛成）

## 3月定例会での決定

### 当初予算

【平成25年度 農業集落排水事業特別会計補正予算】  
事業の確定及び見込みに伴うもので3万1千円を減額し、歳入歳出それぞれ3千732万9千円とするもの。  
可決（全員賛成）

【平成25年度 下水道事業特別会計補正予算】  
事業の確定及び見込みに伴うもので81万4千円を減額し、歳入歳出それぞれ9千529万4千円とするもの。  
可決（全員賛成）

【平成25年度 風ぐるま事業特別会計補正予算】  
売電収入の確定見込みによるもので46万2千円を追加し、歳入歳出それぞれ8千452万8千円とするもの。  
可決（全員賛成）

【平成25年度 病院事業会計補正予算】  
入院・外来患者数の減少に伴う医薬品及び診療材料費の減額などによるもので1千494万1千円を減額し、歳入歳出それぞれ5億2千615万8千円とするもの。  
可決（全員賛成）

【平成25年度 給与等集中管理特別会計補正予算】  
職員の給与及び賃金について各会計間の調整により612万9千円を減額し、歳入歳出それぞれ6億8千411万1千円とするもの。  
可決（全員賛成）

【平成26年度 一般会計予算】

【平成26年度 町立松原診療所特別会計予算】

【平成26年度 町立四万川診療所特別会計予算】

【平成26年度 国民健康保険特別会計予算】

【平成26年度 後期高齢者医療特別会計予算】

【平成26年度 介護保険事業特別会計予算】

【平成26年度 簡易水道事業特別会計予算】

【平成26年度 農業集落排水事業特別会計予算】

【平成26年度 下水道事業特別会計予算】

【平成26年度 風ぐるま事業特別会計予算】

【平成26年度 病院事業会計予算】

【平成26年度 給与等集中管理特別会計予算】

※平成26年度一般会計をはじめとする各会計予算は、総務教育厚生常任委員会に一括付託し、産業建設常任委員会との連合審査により、細部にわたり慎重に審査を行い、審査の結果「原案どおり可決」という委員長報告後、全会一致で可決。

#### ○反対討論

なし

#### ○賛成討論（二宮近雄）

今年がスタートの年、これからは、町長を頭とした職員の一致団結した力が発揮されることが大事である。この予算を見、町長の施政方針を聞いた時に、職員が一丸となって頑張っていけるものがあると思いであり賛成する。

### 条例

【消費税率及び地方消費税率の改定に伴う関係条例の整備に関する条例の制定】  
平成26年4月1日から改定される消費税率及び地方消費税率に伴う公共施設の使用料など関係する29条例について関連する条文を改正するもの。  
可決（全員賛成）

【枥原町課設置条例の一部改正】  
平成25年10月26・27日に開催した「ねんりんピックよさこい高知2013」の残務事務も本年度末で完了することから、保健福祉支援センター事務分掌から「ねんりんピックに関すること」を削除するもの。  
可決（全員賛成）

【枥原町飛行場外離着陸場の設置及び管理に関する条例の一部改正】  
四万川地区に完成したヘリポートの名称、位置を追加するもの。  
可決（全員賛成）

【非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部改正】  
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の一部改正に伴い、関係条文を改正するもの。  
可決（全員賛成）

【地方自治法第203条の2の規定による職員の報酬及び費用弁償の額並びにその支給方法条例の一部改正】  
「体育指導委員」が「スポーツ推進委員」に改正されたことに伴い、関係条文を改正するもの。  
可決（全員賛成）

【地方自治法第203条の2の規定による職員の報酬及び費用弁償の額並びにその支給方法条例の一部改正】  
「体育指導委員」が「スポーツ推進委員」に改正されたことに伴い、関係条文を改正するもの。  
可決（全員賛成）



【梶原町肉用牛育成基金条例の一部改正】

近年の全国家畜市場の価格の動向と町内畜産農家の導入牛の増加に伴い、貸付限度額の増額及び貸付対象牛の拡充をするもの。  
可決（全員賛成）

問

西川慶男  
畜産の振興が、複合経営で考えた農業の振興につながり、一次産業の原点であると思うので積極的に施策に反映させていくべきではないか。

答

副町長 吉田尚人  
本町の農業のあり方は、畜産と組み合わせたり、林業と組み合わせたり総合的に年間収入を得ていく生き方が、本町の一次産業の生き方ではないかと思っているので、総合的な支援を考えていく。

問

長山和幸  
大量に飼っている方も多くなり、新たに参入した方も出てきている今に合った条例だと思う。しかし、これは返済時の金額も増えるということであり、気を付けて運用していく必要があるのではないか。

答

副町長 吉田尚人  
私も心配していた部分ですが、担当からは、購入価格よりも低くなることはないということである。また、貸付に当たっては、保証人とかについても検討するよう気を付けていく。

【梶原町社会教育委員設置条例の一部改正】

社会教育法の一部改正に伴う関係条文を改正するもの。  
可決（全員賛成）

【梶原町子ども・子育て会議設置条例の制定】

現在大きな社会問題となっている少子高齢化問題を解消する手段の一つとして、子ども・子育て支援法に基づき条例を制定するもの。  
可決（全員賛成）

その他

【高幡障害者支援施設組合規約の変更】

障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の一部改正に伴い規約を改正するもの。  
可決（全員賛成）

【梶原町指定金融機関の指定】

平成26年5月31日で、現在の指定金融機関である津野山農業協同組合との契約期限が満了となるため、新たに株式会社高知銀行を指定金融機関に指定するにあたり梶原町指定金融機関設置条例により、議会の議決を求めるもの。  
可決（全員賛成）

閉会中の所管事務調査事項

各委員会は、6月定例会までの閉会中に、次の事項を調査します。

議会運営委員会

- ・議会6月定例会の運営について
- ・特別職給与・議員報酬等について

総務教育厚生常任委員会

- ・教育について

議会広報編集委員会

- ・議会広報の発行について

風力発電事業調査特別委員会

- ・風力発電事業調査について

寄付のお礼

この度、次の方から「議会だより 四万十源流」に対し寄付をいただきました。紙面をもってお礼とご報告を申し上げます。

大阪市鶴見区 河野州彦 様



# 具体的な方向性・計画を示せ

問 長山和幸

## 答 町長 矢野富夫 強い決意で計画を進める!!

今3月定例会は、矢野町政2期目の本当の意味でのスタートであり、これからの4年間を進めるうえで大変重要な議会でもある。

町長の公約である重点施策の内3つについて基本的な考え方、これからの方向性、年度事業計画について聞く。

これらの3点は、本町の将来、町民生活にも大変影響があり、また予算規模も大きく、何より町民の方々とともに考えていくことが大変大切である。そのためは、町の考え方を町民に示し、情報の提供、共有がその基本にあらなければならない。

### 小規模多機能福祉施設について

問 町長が特に思いが強いこの福祉施設は、具体的にどのようなものを考えているのか。

また、施設を造るうえで、その運営事業所と充分な協議が必要であり、そこで働く人の確保も不安がある。町が寮を建設するとかも含め、事業所の不安を軽減することが肝要ではないか。そして、制度設計をするうえで、利用者負担の軽減はもちろんであるが、町の支援とのバランスが重要である。

答 小規模多機能型施設を具体的に言う

と、地域の高齢者が日帰り、通い、介護サービスを受けることが可能なデイサービスセンターを持

ち、その利用者の家族も宿泊でき、かつ在宅サービスをケアマネジメントし、ホームヘルパーの派遣可能な施設のことである。

在宅を基本としながらも、介護認定がなくても、入所・退所ができる施設を創っていく。

今年が、高齢者福祉計画及び介護保険計画の策定年度であり、社会福祉協議会の計画策定と、各計画書との連携を含め、今年度中に、どのような福祉施設が必要か、計画案を策定していく。そして、平成27年度に設計監理費を計上し、平成28年度には、工事に着手をしていく。また、カルスト会とは、さまざまな連携を図りながら、人材確保にも取り組んでいく。

### 図書館づくりについて

問 図書館は、地域文化のパロメーター

であると言われていて。そういう意味からも現在の図書室では、充分とはいえない。また、生涯学習の中での方が必要であり、町づくりの観点

を忘れてはならない。これから、図書館作りを考える会を立ち上げ、町民とも意見交換をしなが

ら進めていくとのことであるが、専門家の知恵も活用すべきではないか。さらに、その運営にあたっては、館長、中核人材の確保、できなければアドバイザーを置いたり、大きな図書館との連携も必要と考える。その場所や営業時間の検討等、併せて蔵書には本町や高知県の歴史やさまざま

まなデータのわかるコーナー等々、こまやかな議論をしていただきたい。

答 生涯学習のまちづくりと捉え、専門家のアドバイスをいただき、町内全域がふれあいの場となる「町内丸ごと図書館」構想を進めていく。本年度、いろいろな団体が勉強、議論をし、その方向性を定め、平成27年度に基本設計をし、場所を決定し、平成28年度以降、設計、工事に着手していききたい。本年度は、検討委員会を設置し、一年かけて計画づくりをしていく。

### 太郎川公園再生について

問 「ゆすはらまるごとクリニック」構想と関連があるが、特にホテル・レストランの老朽化が進み、ハード面、大型什器の老朽化が目につく。利用者の評価も大変厳しい。早急に対策を図るべきではないか。

答 太郎川公園は、昭和58年度から整備を進め、ホテル・レストランは、平成6年に整備して以来20年ほど経っている。森林セラピー基地、ロードの認定を受け、今一度交流の拠点として再生していく。

修繕をしながら、平成26・27年度で調整・検討を行い、平成28年度に設計予算を計上し、平成29・30年度に工事着手していく。





# 世界に通用するよう 全力で取り組む

答 町長 矢野富夫

## ゆすはらまるごとクリニック 町全体で取り組みを!!

問 下元秀俊

今年には矢野町政の2期目の実質的スタートの年である。梶原にとつては1200年へ向けた新たな歴史を刻む年である。「ゆすはらまるごとクリニック」という事業は25年の施政方針ではじめて出された言葉であるが、「ゆすはらまるごとクリニック」の構想はゆすはらのあらゆる資源を活用し地域づくりをしていく大きな柱であると考ええる。人口流出、少子化、過疎高齢化といった大きな課題を抱える本町にとつて大きな希望の持てる事業であると思うが、町民のみなさんへの細やかな説明が必要である。

答 基本的な考え方は、自立経営を基本とし、  
①地域のあらゆる資源を活用する。  
②共生と循環の思想でおこなう。  
③成果を収める仕組みをつくる。  
梶原の目指す6つの社会実現の一つの手段として、森林セラピー基地、セラピーロードを活かす、「ゆすはらまるごとクリニック」の拠点として雲の上のホテル、プール、ギャラリーの地域資源を活かしていく。さらには、女性に求められている健康や美容を促進する機器や体力増強を図る機器等の整備をしていく。そして、建築後20年が経過しているホテル等

問 事業を進める上で多くの課題も考えられる。町が一体となつて進めることが大切とあるし、パートナー企業も含めて課題に対してはどのように取り組むのか。  
答 雇用も含めて梶原町の交流人口の拡大、定住に繋げていくうえでも住民が一つになつて取り組んでいかなければならない。そのためにも26年・27年の中で企業、町民、関係者、専門家の

問 この事業は町民の福祉や健康増進につながる。そして国内のみならず世界にも通用する事業になってほしいと念願する。そのためには、事業化する上で期限を設け、到達度、評価をすることが必要であるが、事業計画をどのように考えているのか。  
答 施設運営を含めて世界に通用するようなものにしたい。そのためにも、梶原未来大使を応援団として世界に多く作っていききたい。「夢を語り、日付けを入れたなら、目的・目標が変わる」として、そのためには、建築もふくめて世界に通用するような専門家のアドバイスもいただきながら、内容、時期、財源等、様々な視点から検討が必要であるので平成26・27年の2カ年をかけて考え

問 経済産業省では健康寿命延長産業の創出という事業も打ち出されている。また、観光庁ではグリーンツーリズム、エコツーリズム、ヘルスツーリズムといった様々な形態のニューツーリズムがあり全国各地で様々に取り組まれていく。「ゆすはらまるごとクリニック」が梶原の将来の地域、人材、産業、経済、文化、教育、福祉、など多方面の波及効果があると考えられる。あらためて、町長の想いを聞く。  
答 梶原町は様々な分野で豊富な資源を持っている。国の動向もしっかりと把握しながら取り組んでいく。また、観光部門においては旧役場庁舎の観光案内所をしっかりと充実させながら「ゆすはらまるごとクリニック」が自立への第一歩になるように全力で取り組む。

一般質問

# 自然エネルギー自給率100%を目指す梶原町

## 風力発電事業調査特別委員長 二宮近雄

### 調査の内容

#### 【沖縄県糸満市】

風力発電施設は、平成11年～13年に糸満市字摩文仁地区の糸満観光農園株式会社内にNORDEX社製（ドイツ）IPI 600（定格出力600kW／125kW二重定格）3基を整備し、市民並びに来園者に対し、クリーンエネルギーの啓発普及を図るとともに、園内施設の補助電源として活用することにより経費の節減と余剰電力売電による収入を目的として設置された。しかし変電所から2つのSVR（電圧調整用の変圧器）を介して配電線につながれているが、その先の地域の電力需要は比較的少ないため配電線の太さは細く、大きな電気は通せない状況である。

糸満観光農園株式会社

は、市が50%、JAが33%、その他17%の出資でアセロラワインの製造、販売、パッションフルーツの生産、販売をおこなっているが、リピーター率が低く利益には繋がっていない。

また、糸満市では、「エネルギー」「環境」「持続的な経済発展」の3つの視点で新エネルギーを考えており、市役所庁舎には195・6kWの太陽光発電施設も設置されていた。



風力発電の概要説明を受ける委員

### まとめ

我が国では、欧米諸国に比べて地形や気象環境に起因する厳しい条件を

有している台風などの強風被害、落雷被害も少なくない。最近の技術開発によりコストが大きく低減してきたが、競合する

エネルギーに比べ、まだまだ割高な面があるの  
で、より一層の低コスト  
化が必要である。さらに  
連系する送電線網が諸外  
国と異なるため、風力発  
電の導入拡大に伴って各  
種の課題が顕在化してき  
ている。

また、本町と同時期、  
同規模の風力発電を導入  
している糸満市において  
は、今後、風力発電によ  
る補助電源や余剰電力売  
電だけを考えれば、風力  
発電施設の取り壊しをも  
検討せざるを得ない現状  
だが、新エネルギーの導  
入・普及に努め、市内全  
域を次世代エネルギー  
パークとしていく考えの  
もと、風力発電施設の有  
効性や価値から、その必  
要性を強く感じている。

本町が今後、風力発電施  
設を設置する場合にあ  
たっては、3月中の閣議

決定を目指すこととなっ  
ている再生エネルギー政  
策「2013年から3年  
程度、導入を最大限加速  
し、その後も積極的に推  
進していく」との姿勢を  
確認のうえ、経済産業省  
担当部署との勉強会を開  
催し、その内容を注視し  
て調査を進め、風力発電  
施設の役割や価値を充分  
検討するよう、今回の視  
察について中間報告とす  
る。

#### 構成委員

- |      |      |
|------|------|
| 副委員長 | 土釜 清 |
| 委員   | 下元秀俊 |
| 〃    | 長山和幸 |
| 〃    | 中岡俊輔 |
| 〃    | 市川岩亀 |
| 〃    | 西川慶男 |



# 孤独感・不安の解消へ

総務教育厚生常任委員長 中岡俊輔

## 調査の目的

本町をはじめ多くの自治体では、少子高齢化が問題視され、幾年か経っているが、現在もおおきな課題として認識されている。

その課題解決に、ほとんどの自治体で若者定住に取り組み、人口構成の平準化を目指しているが、その成果があらわれないのが現状である。さらに、もう一つ重要で進行している、高齢者支援については、介護サービス・在宅サービスに偏り、ややもすると高齢者が自分らしく尊厳を持ち、いきいきと生活できるものではないのかもしれない。

鹿児島県南大隅町を視察し、本町が掲げている「橋原ならではの保健・医療・福祉が充実した社会」の実現にむけて、特に高齢者福祉、高齢者の生活支援について、今後の施策にどう取り組んでいけば、生まれてよかった、住んでよかった、人口構成の平準化を目指しているが、その成果があらわれないのが現状である。さらに、もう一つ重要で進行している、高齢者支援については、介護サービス・在宅サービスに偏り、ややもすると高齢者が自分らしく尊厳を持ち、いきいきと生活できるものではないのかもしれない。

## 調査の内容

地域ぐるみの高齢者支援  
【鹿児島県南大隅町】

高齢化率が44・29%と県平均の26・5%を大きく上回り、過疎化とともに高齢化が進行し、鹿児島県内で最も高い高齢化率となっている町である。その南大隅町では「高齢者が元気で安心して暮らせる環境づくり」が重

要課題のひとつであり、課題の解決に向け、関係機関と連携を強化しながら、高齢者の生活を支援するさまざまな対策を模索し、実施している。

県内で初の事業をはじめ各事業に取り組み実働部隊として奔走するのが社会福祉協議会で、高齢者支援に欠かせない存在となっている。介護予防を目指す独自事業の「サロン」には毎日44箇所ですべ700人の高齢者が参加されている。また、各事業には企画の段階から役場の担当課と社会福祉協議会が内容のすり合わせを行い、質の高いサービスを行っている。

要課題のひとつであり、課題の解決に向け、関係機関と連携を強化しながら、高齢者の生活を支援するさまざまな対策を模索し、実施している。

昨年秋からは、孤独死をなくすためや、病気などの理由から夜間を一人過ごすことに不安な独居高齢者の不安解消へつなぐことを目的に、寝食や歓談をともにする夜間型共同生活「寄ろっ住も家（よろっすもや）」事業を始めた。これまで2集落が公民館で実施しており、看護師の健康相談や食生活改善推進員のつくる食事が好評となっている。昨年12月末には、個人の家でも実施し、会話を楽しみながらの食事や看護師による血圧と体調のチェック、雑談や心配事相談には、不安解消以上の楽しさを感じ始めている。一時的に宿泊可能な施設の改修や備品、寝具の貸与については町と社会福祉協議会の支援もある。今後は、個性が強い人、わがままな人との関わりや個人情報など課題解決にも取り組み、現在の月1回を月2〜3回と増やし、将来的には毎日協力しあって住み慣れた地域で近所仲良く、

## まとめ

ともに暮らせる社会福祉の町へ  
高齢者の多くは、高齢になっても住み慣れた地域で生きがいをもって安心して住み続けたいというのが、以前の住民アンケート結果での願いでもある。また、本町の高齢者においては、元気な高齢者も多く、豊富な知識と経験を有している。

そのことから、地域のいろいろな人が関わり、支え合っていく仕組みが大切であり、今回の南大隅町の取り組みのよいうな、自助・共助により孤独感や不安の解消をはかり、いきいきとした地域社会を創造していく必要がある。高齢者の生きがいの創出や介護状態になることを予防することができ、いきいきとした地域社会が形成されるためにも、他町村の先進的

な事例も見習って独自案も検討し、社会福祉協議会と連携をとって、

越知面区 45人  
四万川区 47人  
東区 76人  
西区 42人  
初瀬区 13人  
松原区 34人  
合計 257人  
の独居高齢者に安心して住み慣れた地域で暮らすにつけていけるため、地域で支え合い、ともに暮らしていける社会福祉の町にむけて推進していきたいように議会もともに考えていくこととし、委員会調査報告とする。

構成委員  
副委員長 土釜 清  
委員 二宮近雄  
西川慶男

# の再生は 一体で推進せよ!!

産業建設常任委員長  
下元秀俊

## 調査の目的

全国一の椎茸産地である大分県及び宮崎県の椎茸生産販売の取り組み状況と課題、今後の展望を調査し本町での椎茸産業の推進に活かすこと。

## 調査の内容

○農業生産法人

株式会社 原田商店

## 概要

平成20年、親会社である有限会社BMハラダが従業員の雇用安定のために設立し、建設用仮設足場施工の技術を活かして人口ほだ場とハウス栽培による椎茸生産に参入した。90aの人口ほだ場で年間20〜25tの生椎茸と同量の乾椎茸を生産販売している。創業当初は椎茸農協に出荷していたが、販売価格の低迷が続く現在は大分県内の中堅スーパー4社に「生椎茸」を年間20〜25t自主流通している。なぜ生椎茸なのかと聞くと、「流通業者は乾椎茸は欲しがらない」との理由である。



椎茸復活へ先進地を調査する委員

## 【課題と取組】

燃料の高騰、消費者ニーズの変化等経営状況は大変厳しいが、原木のクヌギは県内の山を買付し伐採から搬出まで自社で行う。今後、生椎茸の生産比率を80%ぐらいまで高めていきたい。収量

の差が収益に直結するので生椎茸に適した品種へ変更している。生椎茸は「種駒で勝負がつく」との事である。

## ○大分県椎茸農業

協同組合

組合員数は 4123人。市場を開設し月に2回の市を開く。子会社、直販課を設け商品開発と製造販売を行っている。また、安心安全の政策として「トレーサビリティ」に取り組んでいる。

## 【乾椎茸の現状】

景気低迷、ライフスタイルの変化、他のキノコとの競争などの市場変化と、「乾椎茸離れ」という消費動向の変化に加え、原発事故による風評被害がさらなる椎茸離れに拍車をかけ消費低迷と価格低迷の要因となっており、生産者の再生産価格割れの厳しい現状が続いている。

## 【課題と取組】

①生産振興面では、品質と収量アップ、生産コストの削減、効率化のために散水施設の整備、バックホー、ユニック車の導入による規模拡大、

労働の軽減化、省エネ乾燥技術の普及に取り組んでいる。

②消費拡大面では、近年、国内生産量の2倍の輸入量(主として中国産)が占める中で、椎茸農協、県、流通関係者、料理研究家、生産者等と「食のモデル地域推進協議会」を設置し学校給食や料理教室など消費の拡大と新たな商品開発、香港やタイ、台湾、フランスなど、国内外での市場調査と販路の拡大に取り組んで、大分県産を中心とした乾椎茸の振興に取り組んでいる。



# 椎茸復活!! 1億円産業官民

## ○宮崎県五ヶ瀬町

五ヶ瀬町は宮崎県の北西に位置し人口約4千人の町である。宮崎県内では諸塚村、椎葉村と共に椎茸の産地であり、近年農林水産大臣賞をはじめ優秀な成績を収める生産者が多く乾椎茸の盛んな宮崎県内でも良質の乾椎茸の産地である。椎茸生産者の多くが夏場のトマト、ピーマンなどの野菜を栽培する複合経営農家である。約200人の椎茸生産者が年間約50万個の種駒を植菌している。しかしながら、生産者の高齢化、担い手不足、大震災以降の放射能汚染の風評被害による価格の低迷等により生産量の減少が課題となっている。

## 【課題と取組】

I「五ヶ瀬町椎茸振興会」（会員99人）により視察研修、講習会、椎茸菌の活着調査など日頃より品質の向上に取り組んでいる。椎茸の販売額は平成25年度約8千400万円（内生椎茸は3千150万円）である。

① 生産振興策として、「椎茸振興会」が行う活動に対する町単独助成（定額）具体的には支部長を中心に各地に視察研修に行っている。また、県内外のデパートでの五ヶ瀬ブランドといった販売促進活動に対して支援を行っている。

② 生産施設・機械等の助成は県の補助事業も受け、人口ほだ場、ハウス、散水施設等の生産施設や乾燥機、スライサーなど出荷設備等に補助を行っている。

③ 種駒購入については、2万個以上の購入につき2分の1の補助を行っている。

II 農林水産大臣賞を受賞した若手生産者のほだ場と作業場を視察した。商品価値を高めるために、袋掛けや乾燥、選別技術、品質管理を徹底して行うことで高収益に繋げている。

## まとめ

今回はそれぞれ異なる状況と条件下で椎茸産業の振興につきすんでいる事業体を調査したが、消費の減少、価格の低迷、風評被害、生産者の高齢化、担い手不足、販路の拡大など課題は共通点が多いことを改めて認識した。さらには、指導者と新しい人材の融合が新たな産地づくりにつながっていることである。それぞれの地域で生産者、JA、行政が一体となり共通の課題を共有し、生産振興や消費の拡大、販路の調査検討などに共に取り組んでいることが明確となった。わが、梶原町においても椎茸産業の復権と1億円の販売額の目標に向かって歩み始めてい

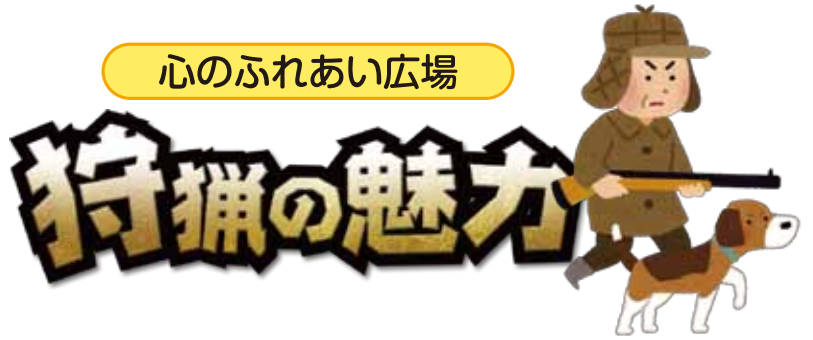
るが、今一度、時代の変化と消費者ニーズの変化、トレーサビリティ、生産者意識、新規参入者支援について、関係者で研究を深める必要がある。さらには、関係者ともども目標と計画、そして強い達成意識を共有し

## 構成委員

副委員長 長山和幸  
委員 高橋基文  
市川岩亀



椎茸先進地の取り組みを学ぶ委員



心のふれあい広場

# 狩猟の魅力

全国、高知県内農山村における野生鳥獣による農林産物被害は年々増大しており、平成24年度被害額は県の統計によると3億6千万円にのぼり、特にシカ、イノシシ、サルによる被害はその80%以上を占めている。最近シカの食害による土砂崩壊の発生や自然植生の消滅など、捕獲駆除の強化が緊急の課題であり、猟期中の捕獲、また有害

捕獲駆除も猟友会員が捕獲をしています。

高知県では、毎年3万頭の捕獲が必要である。しかし、狩猟者の高齢化と銃規制の強化等により狩猟者は激減している。若年、女性の狩猟者の育成は農林産物被害の減少の一端を担っています。農山村の活性化においても最も重要なテーマです。

### 狩師・猟銃の現状紹介 長い歴史の中で 培われた技術

イノシシ捕獲は5・6人から12・13人ぐらいのグループで山をぐるりとかこみ「せこ」犬をつけてイノシシを出す人が、イノシシを追い出し、「まち」銃でイノシシを撃つ人「しがき」イノシシのおる道で待ちます。犬がワンワン、イノシシが牙をならしてガチガチ山を下にドドッと、この瞬間がワクワクヘドキドキ狩師の心は最高。イノシシが迫ってくる。鉄砲の弾が20cmぐらいそ

れる、命中しないと逃してしまふ。一発玉ズドン、ドサツごろごろイノシシが倒れる。一卷の終わりとなればよいが、ズドン「はいサヨナラ」イノシシはバイバイ逃げる。ショックで銃が悪いと銃のからにしてしまふ。そうしなければその場所は、逃がした人の名前が付いてしまふから何年経っても自分の名前が残る。私の名前も48年も猟をしているとかなりある。召し捕ったイノシシは、雪の中をかついだりひっぱったりして持ち帰り料理してみんなでわけてジビエ料理「シシ鍋」になったり、人にかけたりもする。このシシ鍋の美味なことこの上ない絶品まいうー。

(イノシシの言い分は、怖いおっちゃんが鉄の棒を持ち、犬を連れて、ウリ坊を連れだ一家を追いかけて回したあげくに、へたな鉄砲打ちがズドンと大きな音で追い回し、昼寝の邪魔をして困ったものよ)

狩猟鳥獣を捕獲するた

めには、知事発行の狩猟免許取得、公安委員会の銃刀所持免許が必要。まずは、知識から野生鳥獣の痕跡を見わかる。先輩猟師から伝統のワナ「くくりワナ猟、網猟、無双網猟」があり、狩猟民族であり生命をいただき生きていくためには趣味の猟師から今や農作物被害を防ぐため有害鳥獣駆除班ができています。

狩猟には、銃、ワナ網があり、銃には銃刀法狩猟免許試験、事前講習会あり、犬には、地犬、ビートル、ポインターなどたくさん犬がいますが保健所に登録と注射が必要です。医師の診断書には統合失調症、麻薬、大麻、覚醒剤の中毒者はだめです。他にもビートルでウサギを追う、ポインターでキジ、ヤマドリを捕獲といろいろ方法はあるが次の機会に紹介したい。

樽原町から有害駆除、農林産物被害のため多額の補助金、助成金が支出されています。

記 中岡俊輔

## あとがき

去る2月7日に開催された第22回冬季五輪ソチ大会も17日間にわたる雪と氷のスポーツの祭典が無事閉会した。

日本は、金メダル1、銀メダル4、銅メダル3個、合計8個のメダルを獲得した。一方で、参加をして一生懸命な競技をしたがメダルの獲得がでなかつた選手も多かったです。一つ感じたことは、メダルを取った選手も取れなかつた選手も、インタビューを受けたときに異口同音に語った言葉は、監督やコーチをはじめ、家族、友人、そして支えてくれた国民の皆さんに心から感謝していることであつた。

わが町議会に置き換えてみるとどうであるか。3年前に町民の支持を受け当選した議員は8人いるが、町民の期待に背くことなく新聞や本を読み、そして条例や自治法

を解説し日々勉強を怠っていないか、振り返ってみる時期に来ているのではないか。

我々の仕事は町民の福祉向上と行政のチェック機能等といわれるが、もう少し議会全体で勉強をしないとその役目役割を果たしていない気がしている。

まずは自分自身の心眼を開き、過去3年を見つめなおしながら、原点に振り返っていたら、原点的に皆さんに感謝の念(ありがとうの言葉)が欠如していたら、次には結びつかないことは明白であることはいままでもない。四万十源流ご愛読の皆さんどう思いますか？

二宮近雄 記